

いづれも郡司がいて常陸国司の命を受けて政治をやつたわけだ。郡家の所在地も概ね判っている。

真壁郡家の址は、真壁城として引続き支配所となつたわけであるが、最初にここに城を構えたのは多気城主

(北条)常陸大楳直幹の子長幹で、真壁六郎と称した。

鎌倉時代の初めころのことだ。文治五年には八田知家に従つて頼朝のため源義経、藤原泰衡を討つてゐる。長幹から六代目が幹重で、北畠親房に呼応し小田城を中心として勤皇軍として活躍したことは人のよく知るところである。十七代久幹は佐竹氏の応援により小田氏を滅すに功あり佐竹氏に属す。その後、佐竹氏秋田に移るに及び養子房幹随行して角館に去り城は廃絶した。その後、真壁は宇都宮氏、浅野氏、松平氏、井上氏と笠間藩の領土で陣屋を置き治めた。

### 13。贈從四位桜任蔵の墓

真壁駅に近い常永寺にある。桜任蔵は名は真金(まがね)文化九年真壁町の小松崎家に生まれる。常に桜花を愛し桜姓を称す。性豪放磊落にして任侠、水戸に至り藤田東湖に師事し遂に水戸藩士に列し烈公の知遇を受けた。

幕末国難に際し、尊王の大義を唱え、吉田松蔭、西郷隆盛、梅田雲浜らと交わり屢々危難に遇りも屈せず、回天の業を画策中病を得て安政六年七月大阪に没す。遺骨を

常永寺に葬る。時に年四十八才。明治二十四年十二月十七日從四位を追贈された。

### 14。真壁一揆と田村神社。

明治政府が行つた地租改正は地主には有利であつたが小地主や小作人には何等の恩恵もなかつたので税金の軽減を期待してゐた農民は各地に暴動を起したが、茨城県では北の方の小瀬暴動と、この真壁一揆が知られてゐる。即ち明治九年十一月末現在の真壁町に属する村々の農民四、五百人が田村神社の境内に集まり氣勢をあげた。急報で下妻支庁の役人警官数名が首謀者検挙にやつて来たが、農民達に袋たたきにあつた。そこで時の中山権県令は、東京鎮台宇都宮營所に出兵を求めたので武装した士族が下館や下妻、笠間などから続々繰りこんで来たので農民達もやつと解散した。

しかし、主謀者とみられた者三十名余りは捕えられ下妻に拘留された。しかしこのため明治政府は税率を地価の百分の三から百分の二、五にひき下げたのであつた。

### 15。薬王院

真壁町椎尾にある。天台宗の寺で俗に「椎尾の薬師」で名を知られてゐる。寺伝によると寺の創建は延暦元年(七八一)で最澄の高弟最上人(開城町開本の人)が